

Overview in Dentistry4

1 unit 6th-year(2nd semester)

基礎系教員

Target) 基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、臨床現場の諸問題を解決する応用力を育成する。

Outline) 生体、とくに顎顔面領域の構造とその機能の知識を統合し、各種病態における対処法を整理する。また、生体材料の特徴を理解し、疾患に応じた組織再建の方法について考察できる能力を育成する。

Style) Lecture

Manner) 講義

Location) 月曜 6 時限、水曜 6 時限、金曜 6 時限 示説室

Notice) 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

Schedule)

	大項目	内容	担当
1~2.	歯科理工学	材料の組成・物性, 材料の用途別種類と性質, 材料の取扱い技術, 歯科用機械・器具	上記担当教員
3~4.	解剖学	頭頸部の骨・筋・脈管・神経, 腺組織 口腔領域の発生, 加齢	”
5~6.	口腔解剖学 口腔組織学	軟骨と骨, 歯, 歯周組織, 唾液腺, 頭頸部, 顎と顎関節, 発生, 加齢	”
7~8.	生理学 口腔生理学	顔面の体性感覚, 味覚, 顎運動, 咀嚼, 嚥下, 嘔吐, 唾液, 発生, 加齢変化, ストレス	”
9~10.	生化学・口腔生化学	歯と歯周組織(核酸, タンパク質), 石灰化機構, 骨・軟骨, カルシウム代謝, 唾液・唾液腺, 歯面への付着物, 代謝とその相関	”
11~12.	病理学 口腔病理学	歯・口腔・顎・顔面疾患の病因・病態	”
13~14.	細菌学 口腔細菌学	微生物, 免疫, 口腔微生物	”
15~16.	薬理学 歯科薬理学	薬物療法の目的と分類, 薬物の管理, 用量, 薬理作用の機序, 薬物動態, 投与方法, 併用と相互作用, 副作用, 処方と処方箋, 薬物適用上の注意	”

Evaluation Criteria) 試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

Re-evaluation) 行う。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217359>